

令和6(2024)年度 大学地域連携活動支援事業

【みる・する・支える】の
生涯スポーツの実現に向けた
多面的な取り組み



国際医療福祉大学

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

『運動習慣』

国民栄養調査による運動習慣者

「週2回以上、1回30分以上、1年以上、運動をしている者」

20歳代 27.3% (令和5年度調査結果)

スポーツ庁：

「成人のスポーツ実施率を週1回以上が70%程度(障害者は40%程度)」となることを目標に。

(第3期スポーツ基本計画)

運動・スポーツの頻度を増やせない理由：

「仕事や家事が忙しい」「面倒くさい」



国際医療福祉大学のある県北地域の抱える問題

大田原市 R4年度
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

58.9% スポーツに参加していないと回答
20.7% 無回答

20.7% 無回答

⇒ 約80%がスポーツに関わっていない

運動は
「始める」と「続ける」ことのハードルがある



宇都宮市のスポーツ施設



ブレックスアリーナ
宇都宮駅から徒歩20分
LRTで13分



グリーンスタジアム
LRTで45分

LRTの開通によって
よりアクセス性の向上↑

ヴェルフェ矢板のホームグラウンド 『矢板運動公園』



公共交通機関(バス利用)はほぼない
(平日1日2本のみ)

矢板駅からは徒歩60分

自家用車が利用可能な家族・年代は
アクセスが可能だが
高齢者や中高生などはアクセスがしにくい

スポーツは全ての人のもの

スポーツは競技者のものだけではなく、
地域におけるあらゆる年齢層や背景の人々が
生涯を通じて楽しめるもの

「する」「みる」「支える」の観点から
地域のスポーツ活動を一体的に推進することを目指す

多彩な医療専門職のエキスパートを育てる国際医療福祉大学から
あらゆる年代が参加できる地域スポーツ活動を企画し、
地域住民の健康増進を助けることを目的として実施していく。

当初の実施計画

【する・みる・支えるを包括的に】

実施計画

<Step1> 出かけてみよう！自分の身体を知ってみよう！（みる）

県北地域のスポーツ施設を利用する機会創出
スポーツ施設来訪時に身体計測を実施



那須塩原市NASU夢フィールド



大田原市那須スポーツパーク



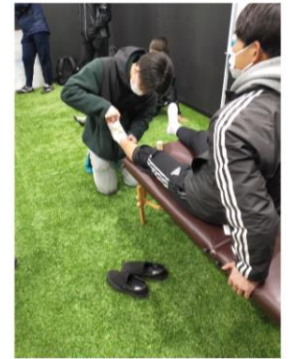
矢板市リアンビレッジ矢板



矢板市文化スポーツ複合施設

<Step3.>（支える）

大学生が様々な年代、
様々な競技レベルの
スポーツ実施者を支える。
地域住民がスポーツ活動の場へ
積極的に参加する。



<Step2.>

やってみよう！身体を動かしてみよう！（する）

身体を動かす機会創出

- ・ 障がい者サッカーチーム ピースとの交流イベント
- ・ 矢板市文化スポーツ複合施設を使用した車いすバスケット体験
- ・ 誰もが実施可能なウォーキングフットボールの企画



実際に行なった企画

《する》

実施した啓発活動

大田原市介護予防拠点施設および公民館 7か所 にて
計105名に「する・みる・支える」のスポーツ活動を普及啓発。

大学にて行われた地域公開講座において
地域住民300名へ講話を実施した。

国際医療福祉大学 地域公開講座



スポーツは「する・みる・支える」の
すべてが重要であることを説明

《する》

交流イベントを実施

10月6日(日)@矢板運動公園陸上競技場
障がい者サッカーチーム「ピース」と
地域住民・大学生の交流サッカーイベントを実施



《支える》

地域サッカーチーム・高校へ 継続的なサポートを実施

矢板市を拠点とするサッカーチーム「ヴェルフェ矢板」
その他高校の部活動や矢板市・大田原市で行われる
スポーツイベント時のトレーナーサポートに
医療専門職の専門知識を活かして参加



《みる》

試合会場への無料運行バスを運行

矢板駅近くの
「リアンビレッジ矢板」から
試合会場の「矢板運動公園」まで
マイクロバスを運行



中間報告会でのご指摘を受けて・・・



全で一括で進めていくのは大変なのでは？
学生の専門知識を活かせるものを整理し、
いずれかの取り組みに特化してはどうか？

→「支える」は十分に機能している
「みる」に特化していく方針へ転換

**県北アマチュアサッカーチーム
ヴェルフェ矢板の試合を観にくる人を増やし
「する」関わりの増加を目指す**

「みる」に関する問題点の整理

「観る」人が少ない(平均観戦者数50人)

地元との
連携不足

試合会場への
アクセス困難

試合会場での飲食
の選択肢の少なさ

試合以外の
アクティビティ不足

そもそも試合があることを
知っている人たちへのアプローチ

《みる》

試合会場への無料運行バスを運行

矢板駅近くの
「リアンビレッジ矢板」から
試合会場の「矢板運動公園」まで
マイクロバスを運行

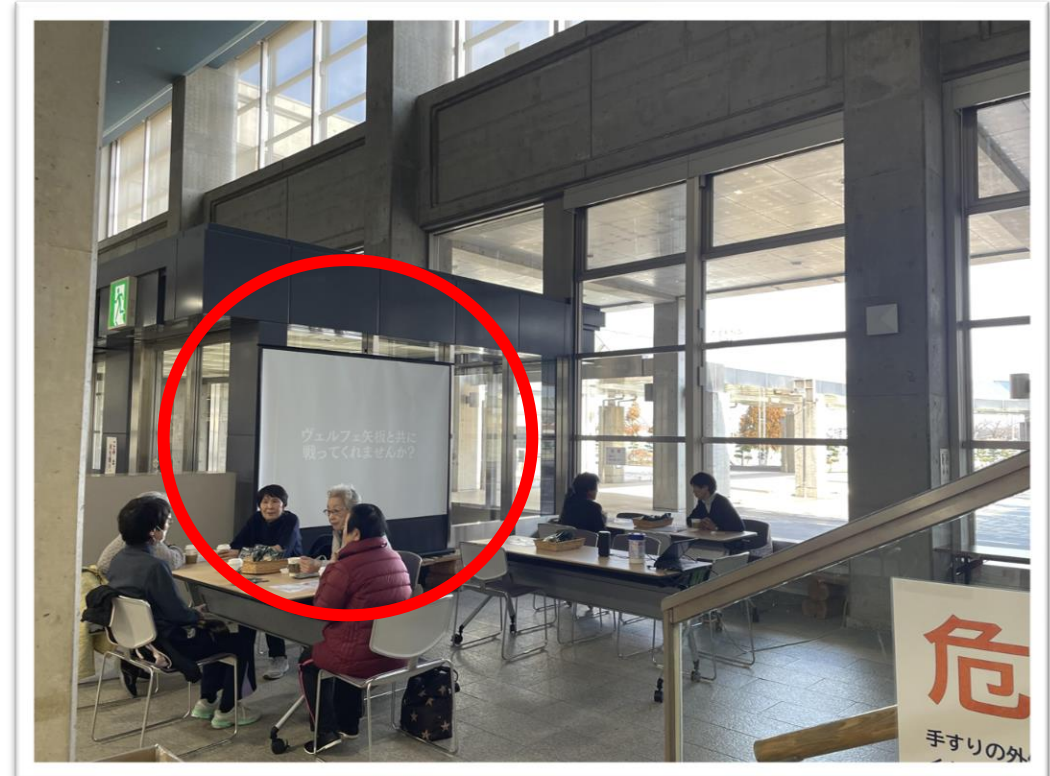


実際のマイクロバス利用者:
1名

交通面アクセス等のアプローチよりも、
そもそも認知されていないことへのアプローチが必要？

地域の人への啓蒙活動を実施

地域在住住民200名が参加した大田原市で
行われた「けんこうフェスティバル」で
チームに関する映像を流す
⇒認知度向上を図る



今後の方針

＜支える＞活動を継続

- ・関東町クラブトレセンへのトレーナー派遣
- ・ヴェルフェ矢板継続サポート
- ・バルサキャンプ、レアルソシエダキャンプへのトレーナー派遣
- ・パラスポーツスクール運営補助参加

＜みる＞活動の強化

- ・試合のライブ中継をパブリックビューイング
- ・選手の細かなプロフィールをまとめ、ファン層の獲得
- ・SNSやウェブサイトの活用
- ・地域密着型イベントの開催
- ・アクセスの多様化